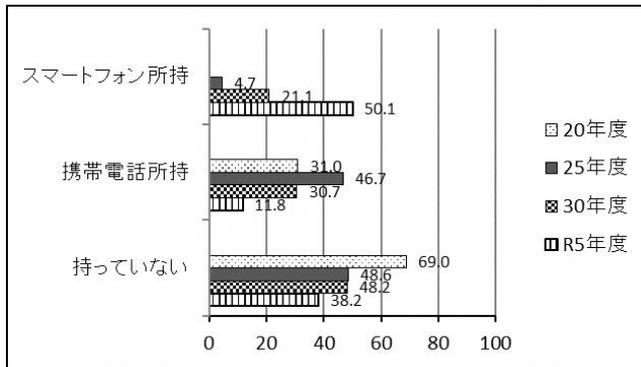


(5) スマートフォン・携帯電話

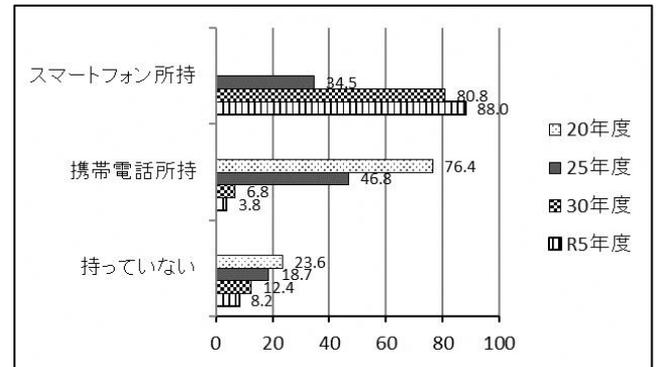
(39) あなたのお子さんは、お子さん専用のスマートフォン・携帯電話を持っていますか。  
 1、2 を選んだ場合は、次の(42)～(44)を、3 を選んだ場合は(40)～(41)をお答えください。  
 1. スマートフォンを持っている      2. 携帯電話を持っている      3. 持っていない

※(39)は、平成20年度より実施。平成20年度は、「携帯電話を持っていますか」

(39) 持たせている (小学校保護者)



(39) 持たせている (中学校保護者)



<令和5年度の結果>

スマートフォン・携帯電話（以下、スマートフォン等と表記）を持たせている割合は、小学生の保護者で6割程度、中学生の保護者で9割程度である。

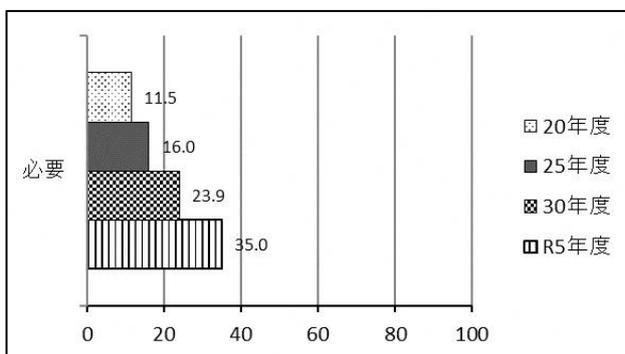
<平成25年度から令和5年度を通しての変化>

小学生、中学生の保護者ともに携帯電話の所持率が下がり、スマートフォンの所持率が高くなった。スマートフォンと携帯電話両方とも持っていない中学生は減少している。(\*)

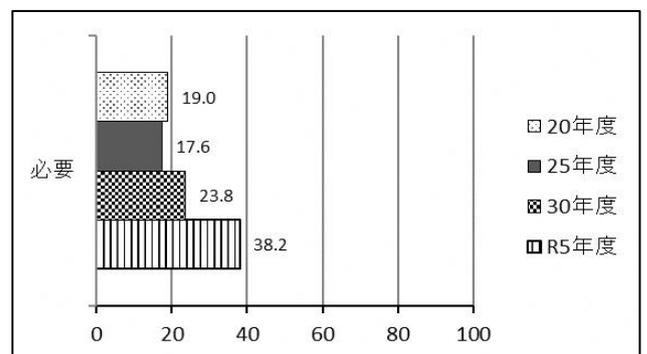
(40) お子さんにとってスマートフォン・携帯電話は必要だと考えますか。  
 1. 必要である      2. 必要ではない

※平成20年度は、「携帯電話は必要だと考えますか」

(40) 必要である (小学生保護者)



(40) 必要である (中学生保護者)



<令和5年度の結果>

スマートフォン等を持たせていないと回答した保護者のうち、「必要である」という回答は、小学生の保護者は3割半ば、中学生の保護者は4割弱であった。

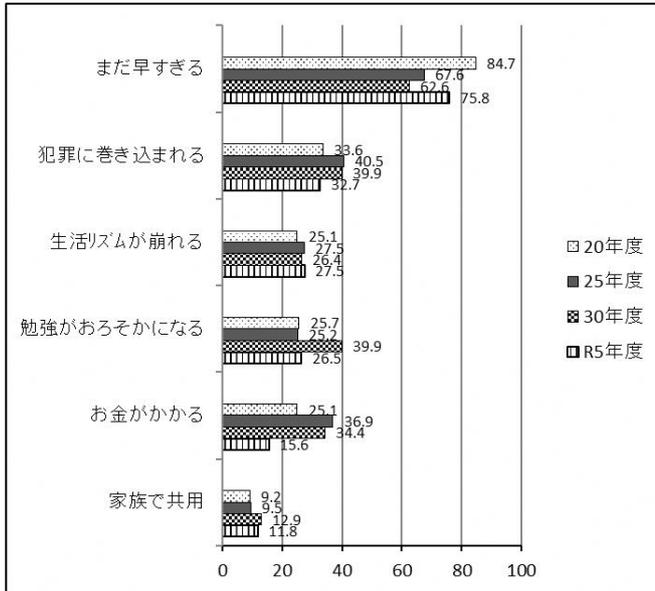
(41) スマートフォン・携帯電話を持たせないおもな理由は何ですか。

(あてはまるものをすべて)

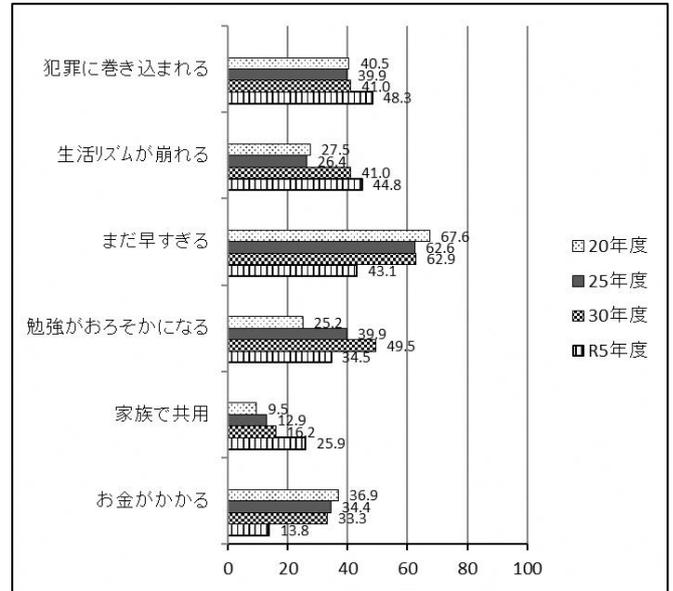
1. 犯罪やトラブルに巻き込まれるから
2. まだ持つには早すぎるから
3. 親子で共用しているから
4. 生活のリズムが崩れるから
5. 経済的に負担が大きいから
6. 勉強がおろそかになるから

※平成20年度は、「携帯電話を持たせないおもな理由」

(41) 持たせない理由（小学生保護者）



(41) 持たせない理由（中学生保護者）



<令和5年度の結果>

スマートフォン等を「持たせない」理由については、小学生の保護者は「まだ早すぎる」が最も多く、次に「犯罪に巻き込まれる」が多かった。中学生の保護者は、「犯罪に巻き込まれる」が最も多く、次に「生活リズムが崩れる」が多かった。

<平成20年度から令和5年度を通しての変化>

スマートフォン等を「持たせない」理由について、中学生の保護者では、「まだ早すぎる」「お金がかかる」で減少傾向が見られる。小学生の保護者では、「生活リズムが崩れる」「犯罪に巻き込まれる」と考えている保護者が増加した。



(42) スマートフォン・携帯電話を購入するときにスマートフォン・携帯電話の機能のうち次のどれが重要だと考えましたか。(あてはまるものをすべて)

1. 通話 2. カメラ 3. メール・LINE 4. 電子マネー (PayPay・LINEPay 等) 5. 電卓 6. ゲーム  
 7. 辞書 8. 音楽 9. メモ帳 10. テレビ・ラジオ 11. YouTube・Instagram・TicTok などの動画視聴  
 12. YouTube・Instagram・TicTok などの投稿 13. インターネットによる情報収集  
 14. GPS 機能 (地図機能・所在地確認機能) 15. SNS (Facebook、X (旧 Twitter) など)  
 16. 利用制限やフィルタリング機能

※令和5年度より、4. 「お財布携帯」→「電子マネー」に変更

9. 「掲示板」→削除 12. 「動画再生」→削除

11. 「YouTube・Instagram・TicTok などの動画視聴」を追加

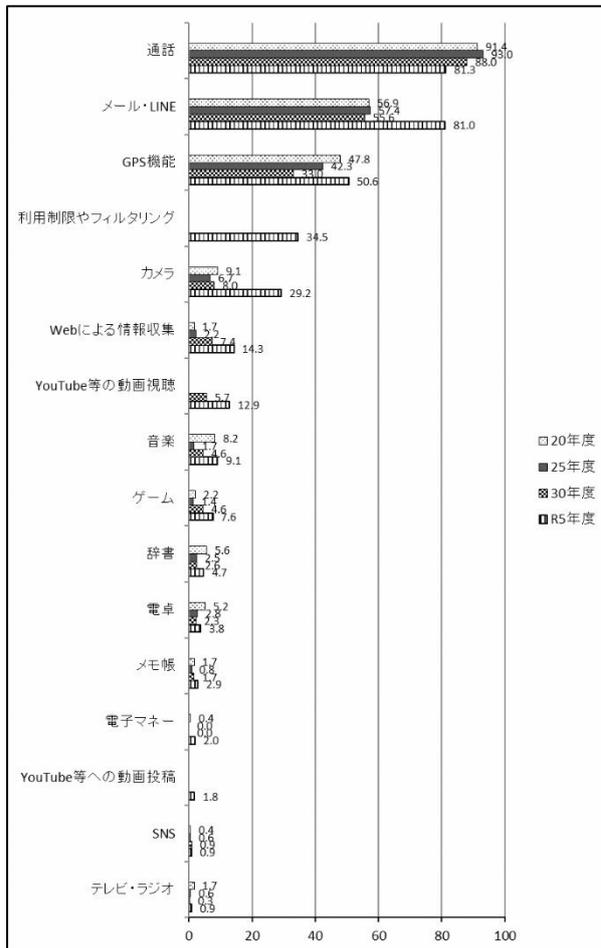
12. 「YouTube・Instagram・TicTok などの投稿」を追加

15. 「ブログや SNS」→ブログを削除

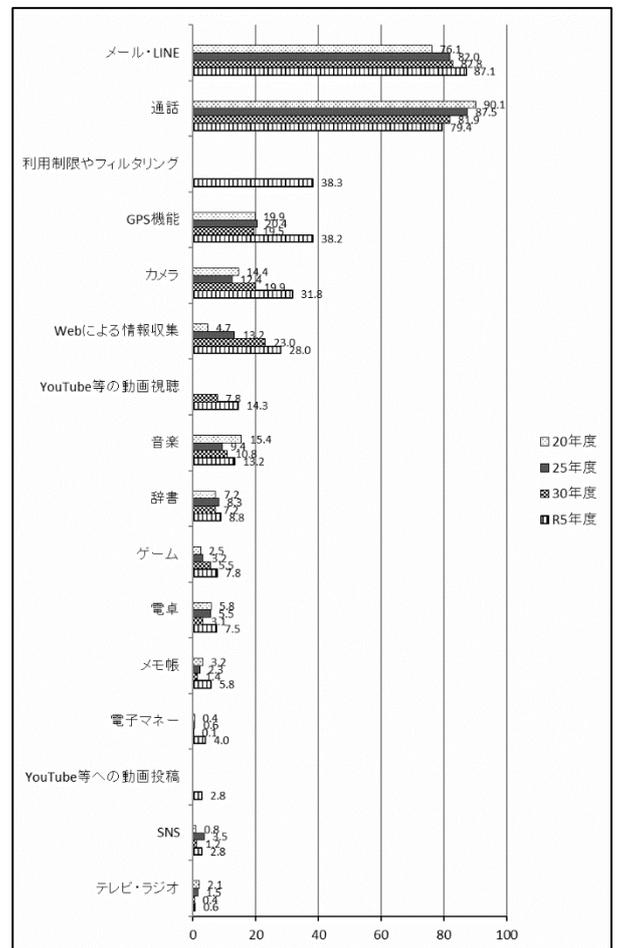
※平成20年度は、「携帯電話を購入するときに携帯電話の機能のうち」

※平成20年度の13. は、ブログ (プロフ)

(42) 機能で重要なもの (小学生保護者)



(42) 機能で重要なもの (中学生保護者)



<令和5年度の結果>

スマートフォン等を「持たせている」と回答したうち、必要とする機能としては、小学生の保護者は「通話」「メール・LINE」が8割と最も高い割合になっている。中学生では「メール・LINE」が1番高い割合となった。また、「GPS」や今回の調査から新設された「利用制限やフィルタリング」の割合も高い。

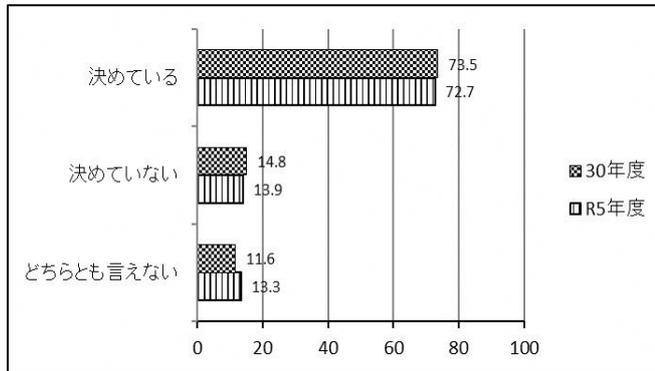
<平成20年度から令和5年度を通しての変化>

小学生の保護者では、「インターネットによる情報収集」が増加した。中学生の保護者では、「通話」が減少し「メール・LINE」「インターネットによる情報収集」「ゲーム」が増加した。平成30年度の調査から入れた「動画視聴」は、1割程度であった。

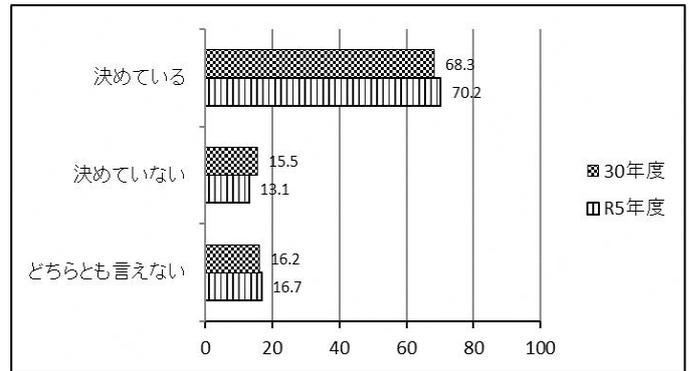
(43) スマートフォン・携帯電話の使用について家庭でルールを決めていますか。

1. 決めている 2. 決めていない 3. どちらとも言えない

(43) 家庭でのルール（小学生保護者）



(43) 家庭でのルール（中学生保護者）



<令和5年度の結果>

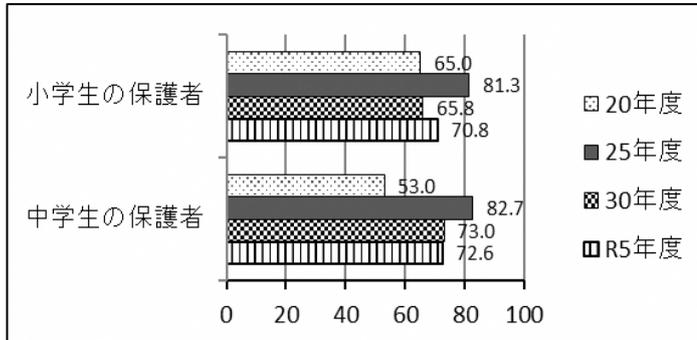
小学生、中学生の保護者は「決めている」割合が7割であった。

(44) 携帯電話会社でのフィルタリング・サービスを利用していますか。

1. 利用している 2. 利用していない

※フィルタリング・サービスを知っているかどうかの項目は削除。

(44) 利用している



<令和5年度の結果>

「利用している」と回答した割合は、小学生、中学生の保護者ともに、7割程度であった。

<平成20年度から令和5年度を通しての変化>

中学生の保護者は、平成25年度の調査に比べて、フィルタリング・サービスを利用している割合が減少した。(\*)

小学生、中学生の保護者ともに、「ルールを決めていない」「どちらとも言えない」を合わせると3割弱である。